

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称
令和5年度第3回美里町生活支援体制整備協議会
- 2 開催日時 令和5年11月30日（木）
午後1時30分から午後3時15分まで
- 3 開催場所 美里町駅東地域交流センター 大会議室
- 4 会議に出席した者
 - (1) 委員 小野俊次会長、渡邊かおり副会長、加藤芳郎委員、角田フミコ委員、
庄子哲広委員、小野祐哉委員、鈴木輝雄委員、小川久美子委員
 - (2) 事務局 美里町長寿支援課 五十嵐華絵、秀城百香
美里町社会福祉協議会 山口保広、永沼威雄、高橋ゆかり、
青木真理
- 5 議題
 - (1) 開 会
 - (2) 会議録署名委員の選出
 - (3) 報 告
 - ①令和5年度くらしのサポーター養成講座について
 - ②令和5年度いきいき元気サポーター養成講座について
 - ③美里町生活支援体制整備協議会啓発事業・美里町老人クラブ連合会研修会
「老人クラブの魅力・再発見！」について
 - ④生活支援コーディネーターの活動について
 - ⑤社会福祉法人南郷福社会の取り組みについて
 - (4) 協議事項
地域の現状について
- 6 会議の公開・非公開の別 : 公開
- 7 非公開の理由
- 8 傍聴人の人数 : 0人
- 9 会議の概要
 - (1) 会議録署名委員の選出 小野祐哉委員、庄子哲弘委員

○(事務局)高橋ゆかり これより令和5年度美里町生活支援体制整備協議会を開催します。開会にあたりまして、小野会長より御挨拶をお願いします。

○小野俊次会長 今日テーマがありますがいろいろな意見を出し合って、和やかに進めたいと思います。皆さんよろしくをお願いします。

○(事務局)高橋ゆかり では、次第に沿って進めていきたいと思います。会議録署名委員の選出について皆さんにお諮りしたいと思います。

(事務局一任の声あり)

ありがとうございます。では、会議録署名人を小野祐哉委員と庄司哲弘委員にお願いしてもよろしいでしょうか。よろしくをお願いします。では、報告に入ります。

(1)令和5年度くらしのサポーター養成講座について、全5回シリーズで9月19日を皮切りに実施しました。今年度は、30名受講のうち18名の方が初めて講座を受講していただきました。特徴としては4回目に、昨年度の受講生に学ぶ暮らしのサポートということで、支え合いの実践について、実際に昨年度の受講者の方に報告を頂いたこともあり、支え合いによる生活支援について、より身近に考えるきっかけになったのではないかと考えております。その一方で、受講者の顔ぶれも少し変わってきたと感じております。グループワークや話し合いを重ねた中で地域課題解決に向けてのとらえ方であったり、考え方が変化してきていると感じています。講座受講後に意向調査を実施させていただきました。その結果が5ページ、6ページとなっております。自分のできる範囲で支え合い活動を個人または地域で活動したいという方が多く見受けられました。しかし、受講生が主体となって、支え合い活動を新たに立ち上げるということは難しいのが現在の現状です。そのために、今後、リーダー養成のようなものも視野に入れつつ、受講生主体の活動の立ち上げについて検討していきたいと思っておりますし、生活支援の仕組みについても、この協議会をはじめ、養成講座の受講生の方々の声も参考にして、方向性を定めていけたらと思っております。(1)くらしのサポーター養成講座についての報告は以上です。委員の皆様、何か御意見などございませんでしょうか。

(特になし)

○(事務局)高橋ゆかり 続いて、(2)令和5年度介護予防サポーター(いきいき元気サポーター)養成講座についてです。資料7ページ、概要が載っております。11月7日からスタートしている講座となっております。定員15名としたところでしたが23名の方が申込みをされております。そのうち男性の方が2名、女性が21名です。地域での介護予防啓発、いきいき百歳体操での体力測定の支援など町、社協と一緒に介護予防を推進していただく方々になります。(2)は以上です。皆さんから何か御意見、御質問などございませんでしょうか。

(特になし)

次に(3)美里町生活支援体制整備協議会啓発事業「美里町老人クラブ連合会研修会～老人クラブの再発見～」について報告します。昨年度は地区社協を対象に実施した研修会でしたが、今年度は老人クラブを対象として実施しました。理由としては、昨年に、二つの単位クラブが解散し、また、今年度休会している単位クラブもあります。老人クラブの活動が停滞していると感じているところでした。その一方で、老人クラブの活動の効果はとて大きく、住民主体の組織としても、期待が大きいところでもあり、生活支援体制整備協議会と目指している方向性も、同じところが多々あり、研修会を開催しました。九つの単位クラブに参加頂き、延べ32名に出席頂きました。内容としては話題提供として、福ヶ袋福寿会の会員増強の取組について、松田会長にお話を頂きました。その後、単位クラブごとに老人クラブの魅力について、話し合いを行いました。話し合いの中で、自分たちの活動に効果があると

確認できた一方で課題も見えてきました。「老人クラブは老人が集まる場所」と名前に偏見があることから会員が増えない、会員の高齢化に加え新しい会員が増えないことで以前のような活発な活動ができないという課題が明確になりました。今後は、老人クラブの活動を知ってもらい社会参加も選択肢の一つになるように、その効果をたくさんの方々に知ってもらい、活動の活性化に向けて活動支援していきたいと思っております。その取組の一つとして、「お元気ですか、特集号」を老人クラブの特集として、来年1月に発行予定です。受講された方々にアンケート調査をしております。アンケートの結果が13ページから15ページに記載してあります。あわせて、参考資料として老人クラブの男女比率、年代が記載されております。お時間があるときにお目通し頂ければと思います。75歳以上の方が多いようです。(3)の報告は以上です。皆さんから御意見、御質問などございますか。

○小野俊次会長 やっぱり勧誘されないと入りにくいし、メンバーが固定されているところに入っていくのもなかなか難しいと思います。その辺、老人クラブのほうで何か考えてもらえば、会員が増えることもあると思います。入り方も分からない人もいると思います。60歳以上であれば、なんでもいいというわけではないでしょう。何かルールや決まり事があると思っている人もいます。いい組織であると思いますが、新しい人が気軽に入れて、今活動している人は快く引き受けてくれる雰囲気がある温かい老人クラブであってほしいと思います。

○(事務局)高橋ゆかり 情報が分からないと入りたいと思っても加入することができないということですね。小川さんはいかがですか。

○小川久美子委員 本小牛田第一東会、本小牛田第二東会は仲良しの方がお勧めし合うので、地域関係なく入っているようです。来年度1人増えるという話も聞いていますし、入っている方からお声掛けされて、新たに入られる方が多いようなので、会員からの声掛けも重要であると思います。

○(事務局)高橋ゆかり 参加したい時に誰に連絡したらいいか、どんな活動をやっているかが分からない状況では参加しようと思えないということですね。

○(事務局)永沼 1月の特集号に老人クラブ連合会、単位クラブの活動を載せる予定ですが、可能であれば、この地区の方々が加入できますとお知らせすることができたら、うちの近くにあるなら入りたいという方も出るかもしれないですね。検討していきたいと思います。福ヶ袋福寿会松田会長に話を聞いたときに、福ヶ袋行政区に住んでいる方のみを対象とした単位クラブですが、近隣の行政区には老人クラブがない状況です。そのため、近隣の行政区の方から入会したいと話があるとのことでした。しかし、取り決めがあるため今後、検討をしていくと話していました。

○小野俊次会長 地域の方は会員に誘ってもらわないと入れないということもあると思います。

○加藤芳郎委員 私の地域では老人クラブはないですが、自主的にやっているサークルが活発に活動しています。そちらは口コミで増えています。「老人」という名前もいいイメージがないと思います。生きがいを感じるような生きがいクラブとか、そういう何か名称はあった方がいいと思います。

○角田フミコ委員 老人クラブというと80歳代の人を連想してしまうので、そこに入ろうという人は、少ないと思います。

○(事務局)高橋ゆかり 10ページに老人クラブの名前を記載していますが、どの単位クラブも「老人」という言葉は入っていません。しかし、老人というイメージが感じました。広く、若い世代の方々にも活動を知ってもらえるように啓発の方法を検討していきたいと思っております。御意見ありがとうございました。続いて、(4)生活支援コーディネーターの活動についてです。12月1日に「おげんきですか」が発行予定となっております。そちらに記載して

おりますお宝を取材したり、いきいき元気人ということで高齢者の方にお話を伺ってきております。続いて、(5)社会福祉法人南郷福祉会の取組についてですが、こちらは小野委員から取組についてお話を聞かせていただければと思います。お願いします。

○小野祐哉委員 まず初めにこのように「おげんきですか」に掲載を頂きまして、ありがとうございました。なかなか町民の皆さんに南郷福祉会を知ってもらおう活動ができていなかったため、紹介していただけることは非常にありがたいです。

活動についてですが、10月から月に1回、「なんごう活きがいデイサービス」という形で、南郷地区の方を対象として、活動を始めました。10月は22日の日曜日に行いました。参加者は24名で、時間は10時から15時までとしました。参加される方をお迎えに上がりまして、10時からスタートしました。午前中は、初めてということもあり、自己紹介をして、リハビリ体操、レクレーションを行ったということでした。レクレーションでは、地区対抗の輪投げ大会を行ったということです。7人1チームで、足りない地区には職員が入り、人数を合わせたようです。お昼については、入所施設もありますのでそこで作ったものを提供しています。午後は涌谷町のイオンセンターへ買物に行き、自宅まで送迎して終了となりました。参加した職員からは、皆さん元気な方が多く、パワフルで驚いたという感想がありました。20人を超える申し込みがありましたので、少人数に分けて実施した方が良いと感じたため参加者に提案をしたところ、行政区が異なり会えない人とも会えるため、このままが良いという意見がありました。そのため、しばらくは20人前後で行うことにしています。今月については19日の日曜日に芋煮会、カラオケをしました。女性には芋煮会の準備を一緒に手伝ってもらい、男性はカラオケを楽しんだということでした。昼食後には自身の体を知ってもらうため、体力測定を5種目行いました。デイサービスセンター職員が記録する冊子を作ってくれ、それを配布しています。今後も定期的に体力測定を行い、自分の体力を確認する機会にしていればと思います。今の形を継続しながら、少人数での活動も必要ではないかと思っております、検討していきたいと思っています。

もう一つですけれども、具体的にはまだ決まってはいませんが、家庭ごみ収集についても、取り組んでいけたらと検討しています。お伝えできる状況になりましたら、協議会の中でも報告させていただきたいと思っていますので、引き続きよろしくをお願いします。

○(事務局)高橋ゆかり ありがとうございます。南郷福祉会では、地域貢献の一環として、様々な取組を検討されているということで高齢者の交流の場を企画しているということでした。皆さんから何か御意見や聞いてみたいことはありますでしょうか。

○小野俊次会長 男女比はどうでしたか。

○小野祐哉委員 はっきりと人数までは分かりませんが、女性が多かったです。年齢は75歳以上が多かったと思います。募集は南郷地区の民生委員に協力を依頼して、民生委員から声をかけてもらいました。

○小野俊次会長 参加した人から、口コミで広がっていき、人数が増えることが期待されません。頑張ってください。

○小野祐哉委員 地区単位での交流の場はあるが、地区を超えての交流の場はないように話を聞いたので今回のような形も必要であると感じています。

○(事務局)永沼 当日は、何人ぐらいの職員の方で対応されましたか。

○小野祐哉委員 当日は3人だと思います。また、送迎のスタッフを入れて6人。また、利用料については昼食代ということで500円を頂きました。

○(事務局)永沼 開催日の日曜日は、デイサービスセンターが休みであり、空きスペース、スタッフ、送迎車を使うことが可能ということであると思います。そのため、介護保険の認定を受けている方も受けていない方も参加することができるということが地域にとって良い形

だと感じています。

○加藤芳郎委員 バスなどを使って送迎したということでしょうか。

○小野祐哉委員 そうです。法人で介護保険事業を提供させていただいているものですから、送迎用に使っているワンボックスタイプの送迎車を活用しました。

○加藤芳郎委員 送迎があると参加しやすいと思います。

○(事務局)高橋ゆかり 送迎があるということは参加者にとってポイントかもしれません。ありがとうございます。南郷福祉会の取組を町内の社会福祉法人にも情報提供させていただき、各法人で取り組むことができることがないか、協力できることはないか検討していければと思っています。ここまで皆さんよろしいでしょうか。では、報告は終了とさせていただきたいと思っています。協議事項に入ります。

協議事項ですが、地域の現状について皆さんの思い、聞こえてきている地域のつぶやきをお話をさせていただきたいと思っています。11月20日に地域づくり加速化事業に参加した中で実施したグループワークを協議会でも行いたいと思います。地域づくり加速化事業について事務局から説明をお願いします。

○(事務局)五十嵐 地域づくり加速化事業は、東北厚生局が実施しているモデル事業となっております。本町の高齢者の生活について、今ある事業が連動しているか、足りないことはないかなど外部の方にも参加していただき、一緒に考えています。3回の支援のうち、前回は2回目でした。加藤委員にも参加していただいています。グループワークでは、「弱りそうな人」「ちょっと弱った人」とはどんな人だろうとイメージ共有をしました。加藤委員、事務局高橋、五十嵐のグループで出た意見はひとり暮らしやアパート暮らし、病気になった・入退院を繰り返している、悲しいことがあった、大切な人が亡くなった、活動していない、趣味や役割がなくなった、今まで参加していたことに参加しなくなったという意見が出ました。次にそういった方とどこで会えるか、どのようなことがあったら元気になれるかを話し合いました。

「弱りそうな人」「ちょっと弱った人」とはどのような人かを共有したいと思います。よろしくお願いします。

○(事務局)高橋ゆかり 具体的に、介護保険は申請してないような人を思い浮かべていただければと思います。どういったつぶやきが聞こえてきているかを出していただきたいと思います。平針1区では、いきいき百歳体操を行っており、その場面で「お昼はパンだけなんだ」というつぶやきを聞いた方が「月に1回、みんなで昼ご飯を食べよう」と話が進みました。誰かと食事をとることや、パンだけではない栄養を考えた内容となることでフレイル予防になっています。「誰かと晩酌したい」は私が訪問した際に聞こえてきたつぶやきです。気になるつぶやきを出し合っていきたいと思います。

○角田フミコ委員 ひとり暮らしではなく、家族としてもご飯食べたら、何もすることがなくてテレビをつけて座っているだけという方もいます。家族と一緒に暮らしていても関わっていなかったり、何もしなくていいと言われて家の中ですることがないと話していました。旦那さんがいれば話し相手もいますが、亡くなっていたりすると話し相手もいなくなってしまうと思います。また、80歳代になると友人が亡くなったり、施設に入ったりしていなくなってしまうともよく聞きます。

○(事務局)青木 角田委員がおっしゃったように、家庭の中での役割がなくなるということによく聞きます。することがなくてゴロゴロしていると弱ってしまうと思います。

○加藤芳郎委員 同居していた若い世代が急に家を出て、高齢者のみが残ったという世帯があります。同居していた頃は関係が良くなかったため、離れたことが良かったと思っていたが、残された高齢者は認知機能が低下したと近所の人から聞きました。刺激がなくな

ったことで症状が進んだ可能性があると感じました。

○(事務局)高橋ゆかり 人との交流や話す機会が減ると弱ってしまうということですね。

○加藤芳郎委員 何かを話していたということでもないとと思いますが、家にいるだけで神経を使っている気が張っていたことが良かったのかもしれませんが。刺激が必要だと思いました。

○渡邊かおり委員 ヘルパーから聞く話は、夜になると寂しいと話す方が多いようです。特に女性。他には、「昔はよかったな」とも聞きます。

○加藤芳郎委員 刺激がなくなると寂しくなると思います。昔はたくさん刺激があったと思います。高齢者だからこそ刺激が必要であると思います。

○小野俊次会長 昔のように、何かやるかとはならない。体が動かないから昔のようにできないと思ってしまいます。「何もかもおもしろくない」という人もいます。おもしろい時代があり、それを思い出して、比べてしまうと思います。

私は、4人で麻雀をしていたが一人亡くなり、麻雀ができなくなりましたが、新しい人を入れてまで続けようとは思いませんでした。仲間と集まる機会が無くなり、「おもしろくないな」と思うこともあります。何でもみんな一緒にやりましょうという考えになりがちだが、一人がいいという人もいます。一人でできる趣味を見つけることも良いことだと思います。

○庄子哲広委員 商工会に加入されている人はやりがいを感じている高齢者だと思います。ただ、最近廃業が増えているので、仕事を辞めてしまうと趣味がない方はこの後どうなるかなと心配になります。仕事一筋でやってきた方々であり、急に切り替えることは、難しいかなと思います。

○加藤芳郎委員 いろいろな機会があるが、活動内容は女性が参加しやすいものが多いと思います。問題は男性。「何もすることがない」ということが男のつぶやきであり、何もすることがないのが一番寂しいと思います。

○角田フミコ委員 男性は仕事をリタイアすると曜日が分からなくなると聞きます。仕事をしている間は月曜日から金曜日まで働いて、やっと土日きたという感じだと思います。ところが、退職したら毎日が日曜日と同じです。女性はチラシを見て、特売日だから買い物に行こうとか何曜日はこのお店が安いとか考えることができますと思います。

○小川久美子委員 コミュニティセンターに来る方はサークル参加とか目的を持ってこられるので、あまり後ろ向きなつぶやきを聞くことはありません。ただ、地域の方でお昼はパンだけ、コーヒーだけ、昼過ぎなど早い時間から晩酌しているなど聞くことはあります。「楽しみがない」と言う方が多いと感じます。また、コミュニティセンターで行っている生涯学習や講座に以前は参加していたが、参加しなくなった方には個別に通知を出したり、案内をもって訪問することもあります。そうした際にデイサービスに行っていたり、自分でコミュニティセンターまで行けなくなったと話を聞くこともあります。地域のボランティアがなくなっている中で買い物や通院、趣味の活動に参加できなくなって、話をする機会が減ったと話している方もいます。

○小野祐哉委員 集まる場所に行く手段として、車があり運転できると行きやすくなるということは事実。個別に対応できることが一番良いが、すべてに対応できるかという点と難しいと感じます。

○加藤芳郎委員 免許返納について話題がでます。家族からは返納した方がいいと言われてながら運転しないと不便と感じてしまうし、高齢者としては気を付けたらいいと思ってしまふ。返納した後はどうしたらいいのかという思いも強いと思います。

○角田フミコ委員 男性は運転が上手だから良いと思いますが、私はもともと下手なので運転が怖いと思っています。車がないと生活が不便であり、返納した後の生活のことを考えています。地域でも家族は辞めさせたいが本人は返納しないという方もいます。家族も仕事

- をしているし、本人の生活に合わせて家族が対応できるわけでもないというのが現実です。
- (事務局)永沼 免許返納がきっかけで出かけなくなり、家の中に籠りがちになるという話はよく聞きます。しかし、何もかもできなくなるわけではないのでできること、楽しみを続けていける方法を見つけられると良いかなと思います。
- 渡邊かおり委員 ヘルパーへの依頼は生活援助が多いです。調理、掃除、ごみ出し、デイサービスの送り出しが多いと思います。ごみ出しは持って歩くことが大変でヘルパーが代わりに集積所まで持って行っています。
- (事務局)秀城 集まりの場所が分からないという方もいます。情報を得ることが難しいのかなと思います。
- (事務局)山口 何もすることがなくなることでやる気が低下して、
- (事務局)永沼 今日、欠席のシルバー人材の万城目委員から聞いた話ですが、遠方に住むひとり暮らしの方の家族から、一人暮らしで誰とも話をする人がいないので週に1回、30分から1時間話相手になってもらいたいという依頼があったそうです。地域の方の見守りもあるが、サービスとして地域にあると、遠く離れた家族は安心するだろうと感じました。
- 小野俊次会長 若いころに楽しんだ趣味をもう一度やってみるのもいいと思います。特技がある人は羨ましいと思います。
- 加藤芳郎委員 「つぶやき」は愚痴、消極的な言葉と思っています。今日のことをどのように前向きにして、発展させていくのかなど楽しみにしています。
- (事務局)高橋ゆかり 次年度から第9期の介護保険事業計画「高齢者がいつまでも地域の中で望む生活を送ることができるまち」を基本理念として、生活支援体制整備事業もここを目指し、課題を明確にして前向きに近づくためにはどうしていったらいいかを考えていきたいと思っています。
- 加藤芳郎委員 今日のような形でたくさん話をして、この場合はどうしたらいいかと具体的に話ができればいいと思います。
- (事務局)高橋ゆかり ありがとうございます。今日出たつぶやきを事務局で課題を整理しようと思います。
- 渡邊かおり委員 次回からは前向きな話ということですので、準備をしていきたいと思っています。
- (事務局)高橋ゆかり 第3回美里町生活支援体制整備協議会を終了します。ありがとうございました。

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和 年 月 日

委員

委員